

ことば科の取り組み

～ことばと読書を大切に教育～

1 ことば科と国語の授業はどうちがうの？

「ことば科」の授業では、子どもたちのことばへの関心を高め、子どもたちのことばの力を伸ばす土壌をしっかりと耕している。



すべての教科や
学校生活で、枝葉
を育てる

ことばの
木

国語の時間でしっかりと
した幹を育てる

ことば科の時間で、子どもたちのことばの木を育てるための土壌を耕す

2 児童の作品から

「ことば文化都市」を標榜して11年が過ぎ、ことばと読書を大切にしている伊丹の教育環境が「※薫習（くんじゅう）」として現れています。

※薫習（くんじゅう）

〔仏教用語〕香をたく部屋にしていると、その香りがいつの間にか衣服に沁みつくように、優れた人のそばにいただけで、知らないうちに感化されること。

第26回 鬼貫顕彰俳句受賞作品（平成28年度）16, 740句応募

小学校低学年の部

かたつむり 雨にあたって 音がする

（伊丹市内小学校3年生）

小学校高学年の部

たきしぶき さわって夏を かんじる手

（伊丹市内小学校4年生）

中学校の部

終わらない 宿題にさす 西日かな

(伊丹市内中学校2年生)

中学校英語暗唱・スピーチ大会や田辺聖子賞読書感想文コンクール（平成26年度までは田辺聖子杯小学生百人一首大会を実施）等、ことばを通した文化的な行事において、積極的に児童生徒が参加する姿が見られるようになりました。

